

GROWTH

後援会通信「グロース」秋号 2005 Vol.7
—大学と家庭をむすぶ— Linking the University with Families October

微風に揺れる木々の葉も徐々に色づき始め、秋の深まりを感じさせる時節となりました。このたび、後援会通信「GROWTH(グロース)」の秋号が完成いたしました。東北学院大学後援会の会員皆さまにお届けできますことを感謝しております。5月の後援会総会、7月から9月の地区後援会も無事に終え、学生が円滑に勉強や課外活動に励むための支援も滞りなく進んでおります。今後も大学と家庭の架け橋となるような誌面となることを願っております。



GROWTH(グロース)の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」(マタイによる福音書13章32節)、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリントの信徒への手紙一3章6節)と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を十分に修め、神と人に祝されつつ大きく成長するようにという期待が本誌に込められています。

CONTENTS

| | |
|------------------|----|
| 後援会会長挨拶 | 1 |
| 学長挨拶 | 2 |
| 平成17年度後援会総会報告 | 3 |
| 平成16年度後援会収支決算書 | 4 |
| 平成17年度後援会収支予算書 | 5 |
| 平成17年度後援会事業報告・予定 | 6 |
| 後援会会員からのご意見 | 7 |
| キャンパス・ニュース | 8 |
| 教育と研究の世界 | 9 |
| 同窓生を訪ねて | 11 |
| 学務部より | 12 |
| 学生部より | 13 |
| 就職部より | 14 |



後援会会長 挨拶

村 松 巖

株式会社七十七銀行代表取締役頭取、同銀行代表取締役会長、社団法人全国地方銀行協会副会長、仙台商工会議所会頭、日本商工会議所副会頭、東北六県商工会議所連合会会長、東北経済連合会副会長などを歴任。現在、株式会社七十七銀行相談役などを務める。

街路樹の葉も色づき、いよいよ秋本番を迎えました。在学生のご父母の皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、本後援会の活動に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年も東北学院大学後援会総会と地区後援会を開催し、多くのご父母の皆様にご出席いただきました。

後援会総会は、去る5月21日(土)に泉キャンパスを会場とし、約1,500名のご父母が集い、賑やかに開催されました。「平成16年度庶務報告」「平成16年度収支決算報告」「平成17年度事業計画(案)」「平成17年度収支予算(案)」などをご審議いただき、お蔭様を持ちまして原案どおり承認されました。また、同時に開催されました大学開放プログラムにも多数のご参加をいただきました。特に、「学生の就職を考えるセミナー」は、会場が一杯になり、ご父母の関心の高さに驚かされました。「学科・専攻別懇談会」と「個別相談コーナー」では、大学開放プログラムの終了時間ぎりぎりまで熱心に参加されており、「大学と家庭をむすぶ」役割を垣間見ることができました。

地区後援会は、去る7月16日(土)から9月10日(土)の主に週末を中心に、北は北海道札幌市から、南は東京都までの全29

地区で開催し、総勢1,300名余りのご父母の皆様にご出席いただきました。総会と同様に開催した「本学教員による公開講座」では、身近なテーマでお話をさせていただき、大変好評をいただきました。また、全体会終了後の個別面談では、ご子女の就職問題や修学状況について、大学から派遣された教職員と直接ご相談いただきました。近年の厳しい経済状況の中、また、親元を離れて学生生活を送るご子女には何かとご心配でしょうが、地区後援会に出席されたご父母の皆様方の悩みや不安の解消に少しはお役に立てたのではないかと考えております。

ご承知のとおり、東北学院大学後援会は、在学生のご父母の皆様を会員として、ご子女の円滑な学生生活と大学の充実・発展に寄与するため昭和24(1949)年に設立されました。設立されてから前半世紀以上が過ぎますが、これからも“大学と家庭をむすぶ”をモットーに、各種事業を展開してまいります。是非、会員の皆様方には、今後とも後援会活動に積極的にご参加いただき、さらなるご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

後援会役員・顧問・参与・事務局長・ 事務局員名簿 平成17年6月1日現在

| | | |
|--------|---------|-----------|
| 会 長 | 村 松 巖 | (仙 台 市) |
| 副 会 長 | 江 馬 成 夫 | 〃 |
| 〃 | 三 島 卓 郎 | 〃 |
| 庶務担当理事 | 後 藤 久 幸 | 〃 |
| 会計担当理事 | 高 橋 祥 允 | 〃 |
| 理 事 | 浅 野 ひとみ | 〃 |
| 〃 | 阿 見 孝 雄 | 〃 |

| | | |
|-----|-----------|-------------|
| 理 事 | 吉 岐 洋 治 | (仙 台 市) |
| 〃 | 伊 東 知 男 | 〃 |
| 〃 | 寒 河 江 満 子 | 〃 |
| 〃 | 佐 久 間 敬 子 | 〃 |
| 〃 | 高 橋 俊 宏 | 〃 |
| 〃 | 平 野 貞 夫 | 〃 |
| 〃 | 堀 田 正 昭 | 〃 |
| 〃 | 渡 辺 静 吉 | 〃 |
| 〃 | 古 関 英 一 | (多 賀 城 市) |
| 〃 | 門 脇 利 勝 | (石 巻 市) |
| 〃 | 坂 本 憲 一 | (気 仙 沼 市) |

| | | |
|-----|---------|-------------|
| 理 事 | 桂 久 | (札 幌 市) |
| 〃 | 成 田 智 典 | (青 森 市) |
| 〃 | 松 本 宏 | (八 戸 市) |
| 〃 | 高 橋 秀 彦 | (秋 田 市) |
| 〃 | 深 澤 禎 彦 | (横 手 市) |
| 〃 | 工 藤 敏 納 | (盛 岡 市) |
| 〃 | 大 友 敏 男 | (宮 古 市) |
| 〃 | 及 川 和 夫 | (北 上 市) |
| 〃 | 浦 島 康 弘 | (大 船 渡 市) |
| 〃 | 笹 島 敬 史 | (新 庄 市) |
| 〃 | 佐 島 清 人 | (山 形 市) |



学長 挨拶

星 宮 望

東北学院中学・高等学校卒業。東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程修了。工学博士。北海道大学教授、東北大学教授、東北大学副総長などを歴任し、平成16年3月東北大学を定年退官。同年4月より東北学院大学長に就任。東北大学名誉教授。専門は電子工学。

いよいよ秋本番を迎えました。1年生の学生諸君も半年間の学生生活を経験し、大学生になったことを実感していることと思います。また、上級生諸君もそれぞれの学部、学年に応じたプログラムで日ごろの学園生活を送っておられることと思います。この後援会は、在学生諸君の日々の学習や生活環境の向上などに寄与するべく、昭和24年から活動されていると伺っております。これまでも多くの課外活動グループにおける諸活動にご支援をいただくなど、正課の授業には現れない多面的な人材育成のプログラムに大きな貢献をさせていただいており、心から感謝申し上げます。

大学で学んだことや考え方を身につけて社会へ出てからの卒業生皆さんの活躍を期待しておりますが、「セレンディピティ」ということについて考えてみたいと思います。ノーベル化学賞を受賞したときに白川英樹さんが記者会見で、「私の発見はセレンディピティです」と言われたそうです。英語ではSerendipityです。イギリスの作家H.ウォルポールが創ったセレンディップ(現在のセイロン)の3人の王子が見聞を広めるための旅をして、多くの苦難に会いながらもそれらの困難を克服して見事に成長して戻ったときに、思いもかけない宝物を発見したというの

です。その発見したものは「立派に成長したこと」であって、初めから意図したわけではないのに賢い努力の結果、偶然に素晴らしいものを手にしたということです。すなわち、セレンディピティは、初めからそれを発見しようとしたわけではないのに、たゆまない研究・研鑽・努力などを続けている内に、まるで神様からの恵みのように大発見をすることを言います。ペニシリンを発見したフレミング、ダイナマイトの発明者のノーベルなど・・・、昔から多くの偉大な研究者の大発見(あるいは大発明)もこれらに類することが多かったようです。そして、必ずしも大科学者でなくても、我々自身においても実際の社会における活動で類似のことがあると思います。

本学では、学問について真摯に学ぶことと同時に、キリストの教えを基本として、人間としての心のよりどころを学んでおりますので、社会に出てからの活躍を期待しているところです。後援会の会員諸氏におかれましては、これらのことをご理解の上、今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

| | | | | | | | |
|----|-------------|----|---------|------|-------|------|-------|
| 理事 | 鈴木 信一 (酒田市) | 参与 | 関谷 登 | 参与 | 飛田 善雄 | 事務局員 | 佐藤 光夫 |
| // | 野 裕一 (相馬市) | // | 浩 治 | // | 樋 高 | // | 荒 梗 |
| // | 佐々木 之 (福島市) | // | 大 平河内 | // | 渡 彌 | // | 桔 梗 |
| // | 石田 博基 (郡山市) | // | 遠 藤 | // | 遠 藤 | // | 今 野 |
| // | 福井 丈夫 (新潟市) | // | 齋 藤 | // | 高 木 | // | 斎 藤 |
| 監事 | 天江 皓一 (仙台市) | // | 遠 藤 | 事務局員 | 菅 野 | // | 草 野 |
| // | 白 木 進 | // | 佐々木 俊三 | 事務局員 | 高 橋 | // | 嘉 男 |
| // | 小 濱 雅 | // | 佐々木 哲夫 | // | 相 澤 | // | 義 光 |
| 顧問 | 赤 澤 昭 | // | 高 橋 征士 | // | 井 上 | // | 捷 寛 |
| // | 倉 松 功 | // | 井 上 義比古 | // | 井 上 捷 | // | 二 郎 |
| // | 星 宮 望 | // | 小 田 三千子 | // | 鈴 木 孝 | | |

平成17年度東北学院大学後援会総会報告

次 第

日時:平成17年5月21日(土) 10時40分

場所:東北学院大学泉キャンパス礼拝堂

司会:後援会事務局長 菅野 健

1.開会宣言

2.聖書朗読並びに祈祷 宗教部長 佐々木哲夫

3.挨拶 会長 村松 巖

学長 星宮 望

4.議事

(1)平成17年度後援会庶務報告について

庶務担当理事 後藤 久幸

(2)平成17年度後援会収支決算報告について

会計担当理事 高橋 祥允

(3)会計監査報告について

監事 天江 皓一

(4)平成17年度後援会事業計画(案)について

庶務担当理事 後藤 久幸

(5)平成17年度後援会収支予算(案)について

会計担当理事 高橋 祥允

(6)その他

5.閉会宣言

◇学務部・学生部・就職部からの説明

(1)学務部より 教務課長 佐々木文彦

(2)学生部より 学生課長 荒 孝夫

(3)就職部より 就職課長 桔梗 元子

新緑まぶしい泉キャンパスに、約1,500名のご父母をお迎えし、平成17年度の後援会総会並びに大学開放プログラムを開催いたしました。総会で審議されました内容は次のとおりです。

(1)平成16年度後援会庶務報告について

・後藤久幸庶務担当理事より、役員人事、平成16年度役員会、平成16年度後援会総会及び大学開放プログラム、平成16年度地区後援会実施状況、文化講演会2004について報告があり、原案通り承認された。

(2)平成16年度後援会収支決算報告について(本誌4ページ参照)

・高橋祥允会計担当理事より報告があり、原案通り承認された。

(3)会計監査報告について(本誌4ページ参照)

・天江皓一監事より帳簿等が正確に整備されていることについて報告がなされた。

(4)平成17年度後援会事業計画(案)について

・後藤久幸庶務担当理事より、平成17年度後援会総会、平成17年度地区後援会について説明があり、原案通り承認された。

(5)平成17年度後援会収支予算(案)について(本誌5ページ参照)

・高橋祥允会計担当理事より説明があり、原案通り承認された。



17年度の総会の様子

平成16年度 東北学院大学後援会収支決算書

収入の部

2005年3月31日(単位:円)

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 予算との差異 | 備 考 |
|--------|-------------|-------------|-----------|-------------------|
| 前年度繰越金 | 5,108,606 | 5,108,606 | 0 | |
| 後援会費 | 194,722,000 | 198,532,000 | 3,810,000 | 12,419名 (12,187名) |
| 大学院 | 3,248,000 | 3,536,000 | 288,000 | 221名 (203名) |
| 文学部 | 42,368,000 | 43,824,000 | 1,456,000 | 2,739名 (2,648名) |
| 経済学部 | 75,392,000 | 76,736,000 | 1,344,000 | 4,796名 (4,712名) |
| 法学部 | 26,224,000 | 26,624,000 | 400,000 | 1,664名 (1,639名) |
| 工学部 | 31,696,000 | 32,072,000 | 376,000 | 2,005名 (1,981名) |
| 教養学部 | 15,344,000 | 15,480,000 | 136,000 | 968名 (959名) |
| 文学部二部 | 30,000 | 30,000 | 0 | 3名 (3名) |
| 経済学部二部 | 420,000 | 230,000 | △190,000 | 23名 (42名) |
| 雑収入 | 8,000 | 9,483 | 1,483 | |
| 合 計 | 199,838,606 | 203,650,089 | 3,811,483 | |

(△印は収入減)

支出の部

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 予算との差異 | 備 考 |
|------------|-------------|-------------|--------------|-------------------|
| 体育文化費 | 115,500,000 | 110,057,838 | △ 5,442,162 | 各部活動・大会参加費・合宿費等補助 |
| 学生会関係補助 | 11,500,000 | 10,045,612 | △ 1,454,388 | |
| 体育会関係補助 | 50,360,000 | 48,679,445 | △ 1,680,555 | |
| 文化会関係補助 | 6,500,000 | 6,488,780 | △ 11,220 | |
| 夜間活動団体関係補助 | 5,200,000 | 5,200,000 | 0 | |
| 工学部学生会補助 | 5,000,000 | 3,498,883 | △ 1,501,117 | |
| 大学院学生関係補助 | 3,248,000 | 3,536,000 | 288,000 | |
| 学生活動指導費 | 1,350,000 | 1,350,000 | 0 | |
| 大会・合宿等付添補助 | 14,000,000 | 13,157,950 | △ 842,050 | |
| 特別強化補助費 | 13,000,000 | 12,850,000 | △ 150,000 | 体育選手・文化活動特別強化補助費 |
| 雑費 | 5,342,000 | 5,251,168 | △ 90,832 | 懸賞論文・課外活動功労者表彰 他 |
| 保健衛生助成費 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 保健室備付器具薬品代 |
| 奨学金助成費 | 18,000,000 | 18,000,000 | 0 | 奨学会奨学金等 |
| 緊急貸与奨学金助成費 | 2,500,000 | 930,000 | △ 1,570,000 | 家計急変による貸与奨学金 |
| 就職活動助成費 | 4,000,000 | 4,000,000 | 0 | 就職活動費 |
| 時報助成費 | 13,000,000 | 13,000,000 | 0 | 時報印刷費、郵便料 他 |
| 総会費 | 30,000,000 | 27,375,363 | △ 2,624,637 | 総会費・地区後援会費 |
| 雑費 | 3,000,000 | 2,215,435 | △ 784,565 | 事務局費 他 |
| 予備費 | 12,838,606 | 0 | △ 12,838,606 | |
| 次年度繰越金 | 0 | 27,071,453 | 27,071,453 | |
| 合 計 | 199,838,606 | 203,650,089 | 3,811,483 | |

(△印は支出減)

監査報告書

平成17年4月15日、本学会議室において、平成16年度東北学院大学後援会会計収支決算書並びに諸帳簿・証憑書類等監査をいたしましたところ、すべて正確に整備されておりますことをご報告いたします。
平成17年4月15日

東北学院大学後援会 監 事 天江 皓一 印
監 事 伊東 幸三 印
監 事 白木 進 印

平成17年度 東北学院大学後援収支予算書

収入の部

(単位:円)

| 科 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 前年度決算との差異 | 備 考 |
|--------|-------------|-------------|--------------|---------|
| 前年度繰越金 | 5,108,606 | 27,071,453 | 21,962,847 | |
| 後援会費 | 198,532,000 | 197,628,000 | △ 904,000 | 12,354名 |
| 大学院 | 3,536,000 | 3,904,000 | 368,000 | 244名 |
| 文学部 | 43,824,000 | 40,304,000 | △ 3,520,000 | 2,519名 |
| 経済学部 | 76,736,000 | 74,752,000 | △ 1,984,000 | 4,672名 |
| 法学部 | 26,624,000 | 25,920,000 | △ 704,000 | 1,620名 |
| 工学部 | 32,072,000 | 31,968,000 | △ 104,000 | 1,998名 |
| 教養学部 | 15,480,000 | 20,720,000 | 5,240,000 | 1,295名 |
| 文学部二部 | 30,000 | 0 | △ 30,000 | 0名 |
| 経済学部二部 | 230,000 | 60,000 | △ 170,000 | 6名 |
| 雑収入 | 9,483 | 8,000 | △ 1,483 | 預金利息 |
| 合 計 | 203,650,089 | 224,707,453 | △ 21,057,364 | |

(△印は収入減)

支出の部

| 科 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 前年度決算との差異 | 備 考 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------------|
| 体育文化費 | 106,521,838 | 113,452,000 | 6,930,162 | 各部活動・大会参加費・合宿費等補助 |
| 学生会関係補助 | 10,045,612 | 11,000,000 | 954,388 | |
| 体育会関係補助 | 48,679,445 | 53,600,000 | 4,920,555 | |
| 文化会関係補助 | 6,488,780 | 6,500,000 | 11,220 | |
| 夜間活動団体関係補助 | 5,200,000 | 5,200,000 | 0 | |
| 工学部学生会補助 | 3,498,883 | 5,000,000 | 1,501,117 | |
| 学生活動指導費 | 1,350,000 | 1,350,000 | 0 | |
| 大会・合宿等付添補助 | 13,157,950 | 15,500,000 | 2,342,050 | |
| 特別強化補助費 | 12,850,000 | 10,000,000 | △ 2,850,000 | 体育選手・文化活動特別強化補助費 |
| 雑 費 | 5,251,168 | 5,302,000 | 50,832 | 懸賞論文・課外活動功労者表彰 他 |
| 保健衛生助成費 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 保健室備付器具薬品代 |
| 奨学金助成費 | 18,000,000 | 18,000,000 | 0 | 奨学会奨学金等 |
| 緊急貸与奨学金助成費 | 930,000 | 2,500,000 | 1,570,000 | 家計急変による貸与奨学金 |
| 就職活動助成費 | 4,000,000 | 6,000,000 | 2,000,000 | 就職活動費 |
| 大学院学生活動助成費 | 3,536,000 | 3,904,000 | 368,000 | 体育文化費より大科目に変更 |
| 時報助成費 | 13,000,000 | 7,000,000 | △ 6,000,000 | 時報印刷費、郵便料 他 |
| 総 会 費 | 27,375,363 | 28,000,000 | 624,637 | 総会費・地区後援会費等 |
| 雑 費 | 2,215,435 | 4,500,000 | 2,284,565 | 事務局費・システム変更料 他 |
| 予 備 費 | 27,071,453 | 40,351,453 | 13,280,000 | |
| 合 計 | 203,650,089 | 224,707,453 | 21,057,364 | |

(△印は支出減)

平成17年度 東北学院大学後援会事業報告並びに予定

平成17(2005)年

- 4月 5日(火) 入学式／後援会入会式(於:仙台市体育館)
 4月 後援会通信「GROWTH(グロース)」
 第6号発行
 4月23日(土) 後援会役員会(於:土樋キャンパス)
 5月 「父母のための大学ガイド2005」発行
 5月21日(土) 後援会総会(於:泉キャンパス)
 7月16日(土) 地区後援会(山形・福島・秋田)
 8月18日(木) 地区後援会(いわき)
 8月19日(金) 地区後援会(水戸)
 8月20日(土) 地区後援会(盛岡・郡山・原町)
 8月25日(木) 地区後援会(大館)
 8月26日(土) 地区後援会(弘前・会津若松)
 8月27日(木) 地区後援会(青森・八戸・新潟)
 9月 1日(木) 地区後援会(宮古・横手)
 8月 2日(金) 地区後援会(釜石・新庄・東京)
 9月 3日(土) 地区後援会(大船渡・米沢・宇都宮)

- 9月 8日(木) 地区後援会(北上)
 9月 9日(金) 地区後援会(函館・一関・鶴岡)
 9月10日(土) 地区後援会(札幌・気仙沼・酒田)
 10月15日(土) ホームカミングデー(第6回同窓祭)
 (於:土樋キャンパス)
 10月 後援会通信「GROWTH(グロース)」
 第7号発行
 11月26日(土) 【東北学院大学文化講演会2005】
 (於:ホテル青森)
 12月 2日(金) 後援会役員会(於:土樋キャンパス)

平成18(2006)年

- 3月24日(木) 【卒業式】

※【 】内は大学主催の主な行事。予定は変更になる場合もあります。

COLUMN「PROGRESS」
プログレス

「東北学院大学文化講演会2005」開催のご案内

東北学院大学は、東北地域最大の総合私立大学の使命として、地域社会と連携を深めながら、社会人の教養を高め、併せて文化の向上に資していくために、学外の講師を招いての「東北学院大学文化講演会」を開催しています。今年度は、青森県青森市を会場に、下記のとおり開催いたします。多数の皆さまのお申し込みをお待ちいたしております。

記

- | | |
|--|---|
| ○日 時:平成17年11月26日(土)14時～16時 | ○対 象:どなたでもご参加いただけます。 |
| ○会 場:ホテル青森「孔雀の間」 〒030-0812 青森県青森市堤町1丁目1-23 TEL.017-775-4141 | ○定 員:先着400名 |
| ○講 師:百々幸雄氏(東北大学医学部教授) | ○入 場 料:無料 |
| ○演 題:「縄文人のルーツと日本列島の人類史」 | ○申込方法:はがき・ファックス・E-mailで、住所・氏名・電話番号・参加 人数を添えてお申し込みください。先着順で400名様に 「入場券」を送付いたします。なお、申込人数は、お一人様 4人までとさせていただきます。 |
| ○シンポジウム:「縄文人の交流と三内丸山遺跡」 | ○申し込み先:問い合わせ先 東北学院大学総務部総務課 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 TEL.022-264-6412 / FAX.022-264-3030 E-mail tgusomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp |
| ○パネリスト:百々幸雄氏(東北大学医学部教授) 福田友之氏(青森県立郷館副館長) 佐川正敏氏(東北学院大学歴史学科教授) 辻 秀人氏(司会・東北学院大学歴史学科教授) | |

後援会総会並びに地区後援会のアンケートのご紹介

後援会総会並びに地区後援会の際にお願いしたアンケートの一部をご紹介します。東北学院大学及び本後援会に対し、ご父母の皆さまから貴重なご意見・ご要望が寄せられました。

すべてご紹介できませんが、寄せられたご意見・ご要望をもとに、本後援会の活動をより一層充実していきたいと考えております。引き続き、会員のご父母の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

後援会総会

- テーマも内容も現代にもあてはまる素晴らしい公開講座でした。(電気1年)
- 楽しみにしていたプログラム「パイプオルガンコンサート」では、すばらしい音色をたっぷり聴かせていただきました。(法律2年)
- 広大なキャンパスが大変きれいに管理されている事に驚くとともに感心した。(法律2年)
- 就職資料室などよく準備されて、利用しやすいように配列されている。(経済3年)
- 図書館が充実していてすばらしかった。子供が有効に利用してくれる事を願っております。(経営2年)
- 詳しく成績表について説明して頂き、成績表をもとに子供と共に考える事ができるのが良かったです。(機械創成2年)
- 年に2回は、学部についての公開講座を開催して欲しい。(英文1年)
- 個人情報が保護されており、安心した(受付において)。(法律3年)
- 「学生の就職を考えるセミナー」がとても良かったです。もう少し、時間が長くてよいのでは。(情報科学4年)

地区後援会

- ゼミへの参加する時期をもっと早くからしてもらいたい。3年の前期からの方がいいと思う。(環境土木4年)
- 経済学部は人数が多く、利用にもよるが、講義を受ける人数が600人という場合も多いと聞きます。マンモス大学でも200~300人くらいにクラス分けできないものでしょうか?(経済3年)
- 地域の総合大学として、医療関係の学部設置を希望します。(経済4年)
- 教職の実習時期を3年次の早い時期にして頂きたい。就職活動との関連などもあり4年次の秋では遅すぎるのではないか。(英文2年)
- 入学時ローンと利子給付奨学金の制度、本当にありがたいです。(経済1年)
- 時間的にも長くなく、聞きたい事がよく分かった。特に興味があったのは就職部の話で、就職セミナーの事が分かって良かった。(英文3年)
- 大学紹介ビデオは、各キャンパスが詳しく見られて良い。また、学生が案内して下さっているのが身近に感じられて良い。(経済4年)
- 単位の事、科目登録の事が分かり、とても参考になりました。(英文1年)
- 大学院についてもう少し詳しく説明が欲しい。(英文2年)
- 大学卒業後の就職が一番心配です。東北学院大学の就職セミナーがあると聞き勉強になりました。(経済1年)
- 地区に対する就職活動について、もう少し説明が欲しかった。(経営1年)

「東北学院大生のための合同企業セミナー」の開催結果について

東北学院大学初の試みである合同企業セミナーが、9月20日(火)、平成17年度卒業生を対象に、後援会と就職部の共催で仙台国際センターにおいて開催されました。このセミナーの開催には、後援会から就職活動費の名目で、ご父母の方々の暖かいご援助を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

また、セミナーの実現に至るまでの過程では、参加協力して下さる企業の確保、開催時期の選定などについて、就職課が一丸となって議論し、その実施に向けて準備を行いました。更に、このセミナーの学生に対する周知徹底には、東北学院大学の各部局が好意的にポスターを掲示したり、教員が積極的に学生に伝えたりなど、本学の全教職員が協力しました。また、学院時報を読んだご父母からの奨めで参加した学生も居り、結果的には、大学挙げて学生と向き合うことが出来ました。

その結果、9月半ばの、一般的には求人活動のピークが過ぎた開催時期にも関わらず、86社の企業が協力参加して下さいました。これは、まさに本学の伝統の賜物であります。また学生の参加数は、当日まで予測出来ず不安として残りましたが、実際は580名(大学院生も含む)もの学生が参加し、企業の方の話を真剣に聞き、それに対して熱心に質問しておりました。中にはこれが初めての就職活動という学生、公務員・教員採用試験の結果によつての方向転換で参加した学生、内定を懐にまだ思い悩みながら活動している学生、と多様ではありましたが、この機会を上手に活用し、今後の就職活動に具体的に生かしていくという観点からは、大変有意義で効果があったと考えております。

今回の企画で設けた「相談コーナー」を通じて明確化されたことは、就職活動に意欲はあるがその取り掛かりを見失っている、就職活動は何かから始めるのかを解からないが故に行動に移せない、という学生の実態です。したがって、このような学生をどのようにして導いていけるかが、これからの大きな課題であります。

最後になりましたが、東北学院大学の学生のためにセミナーに参加して下さいました各企業の方々に感謝申し上げます。



教育と研究の世界



文化として 「法」を読む

法学部法律学科助教授
三 條 秀 夫

現在、世界には200を超える国と地域があります。そして、それぞれがその枠組みの中で何らかの法制度を持っています。法制度には、古代ローマ社会を起源として西欧社会で形成されたものだけでなく、中東アラビア社会・東南アジア社会などには宗教や伝統に端を発する制度もあり、その多様性には枚挙に暇がありません。資本主義経済活動のグローバル化が叫ばれる昨今、その取引システムを支える西欧法制が優位に立っていますが、それは人間社会が創設した多様性の一つに過ぎません。

わが国の法制度の骨格は、今から約120年余り前の明治期に西欧法制を移入するかたちで形成されました。それにより法治国家としての制度的“建前”は成立したのですが、しかし、時として私たちの社会は、“本音”として法制度とは別の規準で動いているようです。これは私たちのルール観に関わる問題ですが、他にも、権利義務や契約、人権のとらえ方も西欧社会とは違います。何故このような違いが現れるのか問題なのですが、敢えて言えば、それは社会の基盤たる“文化の違い”にあると考えられます。

私は現在、ミクロネシア連邦の小さな島をフィールドにして、西欧社会が持ち込んだ法制度と人々の生活との相克を観察しています。それを通して西欧法制の特性を明らかにすると共に、ひいては“文化としての「法」”を解読したいと考えています。学生の皆さんには、世界を見る広く多様な視点を提供したいと思います。



ミクロネシア連邦コスラエ島



伝統食ファーファ作り



生体工学・ 医用工学を通して

工学部機械創成工学科講師
加藤 陽子

本年4月より工学部に講師として勤務しております、加藤陽子です。私の研究領域は、生体力学、医用工学と呼ばれる分野です。具体的には、生体を研究対象とした工学分野です。工学部の中では比較的新しい分野です。これらの分野の研究者の背景は多岐に渡っています。医学部の先生はもちろんのこと、工学部、農学部、理学部等、様々です。私が以前勤務しておりました、独立行政法人理化学研究所 生体力学シミュレーション特別研究ユニット(ユニットリーダー・姫野龍太郎博士)も同様の環境でした。これだけ異なる背景を持った研究者において、共通点がありました。それは、非常に研究が好きであり、自身の明確な主張があるという点です。もちろん、“私は研究が大好きです”“私の主張は～です”などと常に発言している訳ではありません。また、私も一々尋ねる訳でもありません。ただ、普段の何気ない会話からも十二分に、研究がどれだけ好きなのか、どのような考え方をするのか、ということが分かる人達でした。研究背景の違いで理解が困難である場合が無いわけではありません。しかし、研究が好きであること、明確な自分の主張があることは、その違いに歩み寄る大きな原動力であることには違いありません。また、“違い”というものは“困難”以上に“楽しい”ものであることも事実でしょう。同じ研究背景を持った者同士の仕事の話が必要であるのももちろんですが、研究背景の違う研究者の仕事の話も、私にとっては不可欠なものです。

現在私は自身の研究室所属の学生の卒業研究と、いくつかの授業を担当しております。時折、背景が異なる研究者と共に過ごした日々を思い起こしながら教えております。大学に入学された学生の背景は幅広いと思います。互いに理解が難しい部分も多分にあることでしょう。これは大学に特異な問題ではなく、社会人でも経験する部分ではないのでしょうか。“自分自身の背景を受け止め、理解し、自らの明確な主張を持つこと”それこそ他人に歩み寄るために不可欠なのではないのかと思います。学生の皆さんには、日々の授業、研究を通して、これらのことを学び取って欲しいと考えています。

失敗を恐れず、積極行動を

西村一幸公認会計士事務所

所長・公認会計士 **西村 一幸氏**

昭和63年経済学部商学科（現経営学科）卒業。平成3年、会計士補に合格。7年、公認会計士登録を果たし、企業の監査業務、上場準備支援業務に専念。9年、仙台に戻り、個人事務所開業。現在、日本公認会計士協会東北会法令研究委員会委員、東北大学会計大学院助教授などの要職を兼務。「最短テキスト建設業経理事務士2級 Ver.5.0」等を執筆。「学院大でも会計専門職大学院をぜひ開設して欲しい」と力説する、若きサムライ。

— 現在の土樋キャンパス中央図書館の場所には、かつて大学院と隣接して外国人教授の家政婦さん用の住宅がありました。お祖母様が、そこで家政婦さんをなさっていたとのことですが…。

私も生まれてから幼稚園までをそこで過ごし、大学院に遊びに行っただけで「ボク、ボク」って、院生のお兄さん、お姉さんに可愛がってもらい、学院大とは幼い頃からご縁がありました。父も姉も卒業生。父は英文学科から経済学部商学科に編入して、公認会計士になっており、漠然とでしたが、会計士の道は自然にできていた感じです。父から「会計士になれ」とは一言も言われたことはありませんが、ただ一度だけ「やり甲斐がある仕事」と言われたことは、深く胸に残っていました。

— 晴れてお父様と同じ商学科に入学。お母様からは優等生か特待生になることが入学許可条件だったとか？

はい。学費のことでそれが条件に（笑）。2年の時に勉学に励み、3年で何とか優等生になりましたけど、その後は大変で…。

— 学生時代最大の思い出は何でしたか。

3年の夏休みにアメリカのアーサインズ大学へ6週間短期留学したことです。参加者は引率の方を含めて総勢43人。海外も、留学も、寮生活も何もかもが全て初めて。スケールは大きいし、人間的な優しさが全然違う。ホームステイ先では、「恥ずかしいがな」とよく言われました。なかなか自分を出せないでいると映ったんでしょうね。色々な意味でもすごいカルチャーショックを受け、そこから人生が変わったと思います。留学後半の旅行では、職員の間階堂哲さん（現・工学部職員）と二人で、端から端まで約3kmのゴールデンゲートブリッジを海風を浴びながら走り切ったことは、

一生の思い出です。今でも当時の仲間との交流は続いており、特に二階堂さんご夫妻には、仲間にもなっていました。

— ところで、公認会計士への道はどのように？

公認会計士の試験は1次・2次・3次とありますが、大卒者は1次試験免除。2次試験が難関で、専門学校で試験準備をするために、東京へ3年。今なら、大学と専門学校のダブルスクールという方法もあるでしょうが、当時の仙台には専門学校がまだありませんでした。25歳で2次に受かり、会計士補、会計士の卵ですね。その後、監査法人に入って3年の実務経験を積んだ上で、3次に臨み、28歳でやっと一人前の会計士になりました。

— お父様のおっしゃった「やり甲斐」は実感されていますか？

昔は監査という民間会社ばかり。ところが、社会環境が変わってきて、今や社団、財団、地方自治体など公的な分野での監査が増え、会計士が一層必要とされてきています。宮城県の依頼による包括外部監査もその一つで、何をテーマに調査をするかは、監査人が自由に選ぶことが出来る権限があります。私たちの血税を扱っているわけですから、集中して調査し、問題点を指摘し、最終的に側面からその対策を提示してもらうまで続きます。結果として、県民皆さんのためには良いと思っています。

— 最後に、在校生へメッセージをお願いします。

社会人になって、どこに行っても卒業生はいろんな業種・分野で活躍なさっていますから、信頼関係を築きやすく、学院出身で良かったと思います。ただ、今私が、東北大学の依頼で東北大学会計大学院で教鞭を執らせてもらっている経験から感じることは、学院大生は非常に真面目で、人間性も抜群ながら、それを有効に使う術をあまり知らないのではないかということです。もっと伸びるのに、留まっているのは、もったいない。リスクが高いとみると、失敗を恐れ、安易な方へ流れてしまう。例えば、会計士試験も時間が掛かります。すると、大変だから最初からやめよう。東北大生はそれでもやろうとする。そこが違います。意識を変えたら、会計士はいっぱい合格すると思いますよ、素質はあるのですから。あれこれ考え悩む前に、積極的に行動してみてください。色々な経験を通して自分を見つめ直す時、やがて自分の存在意義が見えてくる。その時、将来の目標が明確になるのではないかと思います。





G R O W T H

学務部より

災害などの緊急時に備えた 対策の確立

学務部長 井上 義比古

本学のキャンパスがある宮城県仙台市および多賀城市は、台風など悪天候による災害が比較的少ない地域とされています。しかし、8月には、幸いなことに本学の施設への被害はなかったものの、かなり大きな規模の地震が発生して、鉄道などが長時間にわたって不通になりました。今回よりも大規模な宮城県沖地震が30年以内にほぼ確実に再び発生すると予想されておりしています。

地震を含む大規模な自然災害の場合、施設や人間への被害があり得るだけではなく、公共交通機関の不通によって、学生・教職員の通学・通勤に大きな支障をきたす場合もあるようです。また、自然災害だけではなく、キャンパスの内外で何か緊急事態が発生し、授業や試験を続けられなくなる可能性も考えられます。

そのような事態が発生した場合、本学が従来からもっている仕組みでも対処が不可能というわけではなかったのですが、全学的な連携などについて、必ずしも明確に決まってはいませんでした。そこで、災害などの発生により通学や通勤が非常に難しくなったとか、大学の内外で事故や事件などの緊急事態が発生して授業を続けることが極めて困難になった場合、大学の判断で速やかに全学の授業や試験を休み、事態が回復した後に再開するための手続きや連絡方法を明確に定めた要項を作成しました。

要項というのは、いわば法令のようなものですから、要項の内容をもっと具体的に見やすく書いた、学生向けの「防災マニュアル」を作成し、すべての学生の手に渡るようになっていました。このマニュアルの中では、授業や試験に関するだけでなく、大規模な地震が発生した場合にどのようにして身を守り、避難するかについても、できるだけ分かりやすく説明されています。

なお、上に述べた要項のほかに、災害時に学内で救援措置を行うために教職員がどのように取り組むかを定めた規程が整備されており、その内容を分かりやすく書いた教職員向けの「緊急時対応マニュアル」も作成されています。しかし、要項やマニュアルは完全ではあり得ませんし、詳しいマニュアルがあり、皆がそれを熟知したからといって、緊急時に十分な対処ができるわけではないことは、言うまでもありません。本学は、今後も緊急時に対応するための要項とマニュアルを継続的に見直しに行くと同時に、構成員の自覚を高め、訓練を実践して行く所存です。

G R O W T H

学生部より



「グループ主任」制度について

学生部長 樋 渡 滋

平成17年度も半ばを過ぎ、それぞれの学年で大学生活を満喫している学生もいれば、明確な目的も見出せずにこれからの大学生活にどのように送ろうか悩んでいる学生もいることも現実です。かつては大学に入ることが最大の目的で希望する大学に入学がかなうと、目的が目の前から消えた為に、「五月病」とよばれる無気力な生活を送るケースが全国の大学に多く見られたこともありました。この「五月病」は姿を消しつつありますが、通年を通して明確な勉強目標が立てられない学生が多くなりつつあります。これは東北学院大学に限ったことではないようです。

本学では、新入生については入学時に一日も早く新しい環境に慣れていただくために学生の「オリエンテーション・リーダー」と教員の「グループ主任」と宿泊を伴うキャンプや数日に亘ってのオリエンテーションでこれからの大学生活をいかに過すかを指導しております。

後者の「グループ主任」制度は全国の大学に先立って本学で取り入れ、今日まで学生の指導に当たってまいりました。この「グループ主任」制度は新入生のみを対象とするものでなく、文・経・法学部の学生が3年に進級して泉キャンパスから土樋キャンパスに変わっても、入学時

の「グループ主任」がそのまま引き継ぎ学生の面倒や相談に応じる制度であります。もっとも、3・4年になりますと「ゼミ」との繋がりが強くなり「ゼミ」の指導教員と種々の機会を通して自分の将来などについて相談できますが、「ゼミ」を履修しない学生は、この「グループ主任」制度を利用して、相談に乗っていただけます。

何か相談事がありましたら遠慮なく申し出ていただけますれば、「グループ主任」の先生と相談しながら対処したいと考えております。

平成17年度下半期就職行事 予定表

※対象学年はほとんどが3年生ですが、1・2年生も参加できる行事もあります。
詳細は各キャンパスの就職掲示板でお知らせしています。

| | 就職活動ガイダンス | 就職支援後援会 | 適性検査・各種講座説明会等 | 公務員講座 | その他就職 |
|-----|---|-------------------------------------|--|------------------------|--|
| 9月 | 第2回 具体的な就職活動について 自己分析の重要性と方法について | 第3回 今年度の就職戦線 | パソコン講座 カレッジTOEIC | 公務員講座 教養応用講座 | 企業と学生の 合同セミナー(4年生対象) 3年生対象就職面接 (就職予備登録) |
| 10月 | 第3回 業種・職種の研究の仕方について 業界・企業研究の具体的な方法について 就職サイトの上手な利用について | | ファイリングデザイナー講座 | 公務員講座 専門応用講座 公務員 | 3年生対象就職面接 (就職予備登録) 先輩体験談 インターンシップ報告会 企業と大学の顔合わせ会 |
| | 第4回 自己PRと志望動機について エントリーシート、履歴書の書き方 求人票の見方、就職登録について | | | | |
| 11月 | 第5回 先輩訪問、企業訪問の手順と心得について 合同セミナー、企業セミナーの 参加心構えについて | 第4回 企業の求める人材 ・男子学生編 ・女子学生編 | 情報処理適性検査 エントリーシート攻略テスト 論文文講座 ファイリングデザイナー講座試験 教員模擬試験 SPI模擬試験 カレッジTOEIC 2年生適性検査 | 公務員模擬試験 | 先輩体験談(土曜) |
| 12月 | 第6回 服装・化粧の仕方(講習を含む) | 第5回 就職活動の マナーと常識 | 日経経済テスト SEQ 情報処理テスト(GAB/CAB対応) 2年生適性検査結果説明会 グループワーク(泉3年生・オプション企画) エントリーシート講座(多賀城) 論文文講座(多賀城) | | 業界研究講座 先輩アドバイス会 |
| 1月 | 第7回 求職票(進路調査書)回収 春休みの就職課駆動について | 第6回 面接試験に 成功するには | エントリーシートテスト SPI模擬試験 | 公務員模擬試験 | 3年生個人面談(泉) |
| 2月 | 就職進路希望調査マークシート配布 | | カレッジTOEIC(泉・多賀城) 教員模擬試験 SPI模擬試験 | | 企業研究講座 |
| 3月 | | | SPI模擬試験(多賀城) | 公務員模擬試験 | |
| 4月 | 第8回 求人、就職環境について 推薦状について 就職進路希望調査マークシート回収 | | | 公務員模擬試験 | 宮城県、仙台市等 地方自治体説明会 国家公務員説明会 警察官説明会 インターンシップ説明会 |

※上記の就職部各行事については3年生が主になっています。キャンパスによって若干の日程とタイトルが異なる場合もあります。その都度掲示板等でお知らせいたしますので注意してください。各行事とも学生は参加するのが一番です。ご父母の方々のお声かけをよろしくお願いいたします。

※現時点で4年生の就職内定動向把握ができておりません。ただし、求人数は昨年を上回っておりますので、内定率も上回るだろうと予測いたしております。しかし、中には今から就職活動ということもありえます。求人は若干となっても、ギリギリまであります。諦めないで最後の最後まで就職することに前向きに希望をもって取り組んでください。各キャンパスの就職課・係の窓口をドシドシご利用ください。皆で頑張りましょう!!

教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成16年4月1日から平成21年3月31日の期間、次の事業の完遂に向けて教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

【募金目標額20億円】

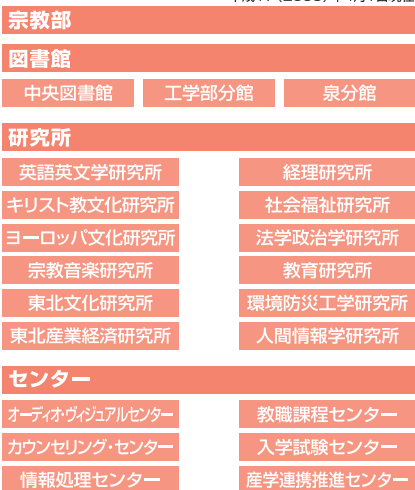
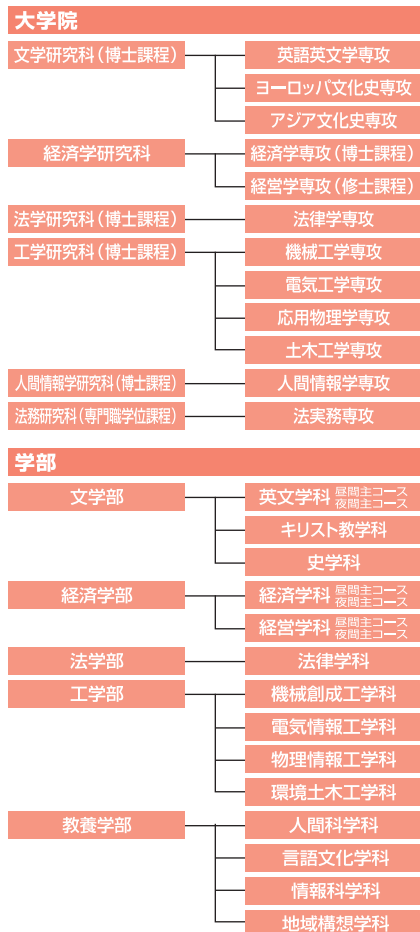
- 1.東北学院大学キャンパス整備
- 2.東北学院中学校高等学校校舎建設
- 3.東北学院榴ヶ岡高等学校校舎体育館および管理棟建設
- 4.東北学院会館(仮称)建設
- 5.東北学院育英奨学基金の増額

詳しくは、
東北学院法人事務局財務部会計課まで
お問い合わせください。

〒980-8511
仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6467
FAX.022-264-6510

ORGANIZATION 教学組織図

平成17(2005)年4月1日現在



東北学院大学

土樋キャンパス

大学院:文学研究科、経済学研究科、
法学研究科、法務研究科
学 部:文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、
夜間主コース
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6421(総務課)
FAX.022-264-3030(総務課)

多賀城キャンパス

大学院:工学研究科
学 部:工学部
〒985-8537 多賀城市中央1-13-1
TEL.022-368-1116(総務課)
FAX.022-368-7070(総務課)

泉キャンパス

大学院:人間情報学研究科
学 部:文学部・経済学部・法学部(各1・2年)、
教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢2-1-1
TEL.022-375-1121(総務課)
FAX.022-375-4040(総務課)

東北学院大学後援会通信 GROWTH(グロース) vol.7

本誌に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

発行日 平成17(2005)年10月

編 集 東北学院大学後援会事務局
(総務部総務課内)

発 行 東北学院大学後援会
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6411
FAX.022-264-3030

E-mail kouenkai@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/

印 刷 ハリウコムニケーションズ株式会社